

群馬自治

令和元年
No.362
月号

群馬県町村会・群馬県町村議会議長会／発行・編集人 梅村 透／〒371-0846 前橋市元総社町335-8 027-290-1352

特集

時代にふさわしい農山村の価値をいかに高めるか

早稲田大学名誉教授 宮口 侗迪

町村トップ通信 榛東村／真塩 卓 村長

議長随想 片品村／星野 栄二 議会議長



霜の朝・竜宮から景鶴山

新井幸人氏の尾瀬シリーズ▶ 74

おすすめの一冊⑧ 「原爆 広島を復興させた人びと」

『なんで群馬県？なんで南牧村を選んできたの？本当にここよかった？』

これは、北海道から沖縄県まで、全国の自治体が集まる地域おこし協力隊募集相談会で、南牧村に興味を示し、選んでくれた方達に私が抱いた思いです。

私自身ですら生まれも育ちも群馬のせいか「海があるところっていいなあ」などと自分がインドア派であることを棚にあげて、他の地域の募集内容に移りし、南牧村が劣っている様に感じることもあります。

なぜなら、南牧村は、高齢化率・少子化率共に全国一位であり、世界の中で課題先進国である日本その中でも先頭に立つ「課題先進村」のため、全国的に有名になり、注目を浴びたからです。

そんな「課題先進村」南牧へ夢を持って移住してくる方達の中に「地域おこし協力隊」がいます。

南牧村を希望してきた隊員の中に「農業をやりたい」という若者がいました。「南牧村は、農業盛んじゃないよ」「急峻な地形だから平らな農地が少ないよ」ちゃんと説明

近すぎて見えない魅力

しましたが、若者は南牧村で農業をやりたいらしい。若者曰く、「自然農法で少量多品目の農業をやりたい自分にとって、小さな耕作放棄地は、農業が抜けた状態の良い畑となり得る。」なるほど！勉強になります。

事業開始当初から南牧村では、協力隊任用期間の最長3年間のうちに、地域に定住し、自ら生活していく術を見つけてください、と隊員の将来に目を向けた重要なミッションを設定しています。

現在、卒業隊員は、それぞれ農業や民間企業への就職、また起業準備をしている者など様々で、生活は厳しいものの、南牧村へ定住し、自分のやりたかった事ができているようです。

現在は、4人の隊員が活動中であり、私の気付いていない南牧村の魅力を感じながら、今後どのような形で南牧村の生活を満喫していくのか、行政として精一杯寄り添いながら、支援していきます。

(南牧村 村づくり・雇用推進課 今井 和則)

町村トップ通信



榛東村長 真 塩 卓

子どもに夢を みんなに福祉と安心を

の助成などを行いました。また、群馬県立健康科学大学との健康づくり推進の協定締結や国保税の引き下げ、介護予防教室の実施や地域全体が参加する地域包括ケアシステムを構築し、福祉・医療・介護の充実に努めてきました。県外では、茨城県大洗町、神奈川県大井町、東京都葛飾区と友好や防災の協定を締結しています。また、ふるさと納税制度では、早い段階から積極的に活用して、榛東村の地域経済の発展に努めてきました。

次世代へつなげる

最後に、上毛大橋から役場までの延伸道路の早期実現とそのアクセス道の整備です。現在、高崎渋川線バイパスが開通し、人やモノの流れが大きく変化し始めています。更に、この道路の完成により大幅に流れが変わり、路線周辺地域の発展や活性化が期待されます。

現在は、更なる村の発展を思い、次世代へのかけ橋となるよう、次の施策に重点を置いています。

まず、中央コミュニティセンターと学校給食センターを複合した防災拠点施設の整備です。平時は、地域の憩いの場となる集会所とアレルギー対応型の給食センターとして使用し、災害があった際は、村の防災拠点として使用します。これは、長く共存共栄でやってきた自衛隊の基地所在村として、防衛省からの補助金を活用して実施します。

次に、子どもの医療費無料化

の拡充です。子育て世帯の負担を軽減するとともに、子どもたちが安心して必要な医療が受けられるように、高校卒業程度までを対象に医療費無料化に取り組みます。

榛東村は、群馬県のほぼ中央に位置し、東に関東平野を望み、西に榛名・伊香保の観光地を擁する自然豊かな都市近郊農村です。北関東有数の栽培面積を誇る榛東村ぶどう郷があり、八月から九月にかけては、村の特産品であるぶどうを求め、多くの方が来村されます。今年も多くの方にお越しいただき、大変うれしく思っております。ぶどうの収穫が終わると、黄金色に輝く田園風景が広がり、自慢の美味いお米が収穫を迎えます。冬になると富士見峠から関東平野のきらめく夜景を望むことが



特産品のぶどう



黄金色に輝く田園風景

でき、春には陸上自衛隊相馬原駐屯地の桜が咲き誇ります。四季折々の風景が楽しめる風光明媚なこの村を多くの方に訪れていただきたいと思っています。

六十周年を迎えた村

榛東村は、桃井村と相馬村の合併を経て、昭和三十四年に誕生してから、本年八月で六十年の節目を迎えました。創造の森キャンプ場や総合グラウンド等の整備、陸上自衛隊の駐屯、昭和天皇の行幸啓、秋篠宮御夫妻、ベトナムの国家主席の御来村など、この六十年で様々な事柄が起きました。また、高崎・前橋



毎週末にぎわいを見せるキャンプ場



時代にふさわしい農山村の

価値をいかに高めるか

早稲田大学名誉教授 宮口 侗 廸

1. はじめに

わが国の地方の町村は、通常かなり広大な農山村地域を抱えていて、全体としても過疎地域に指定されているものが多い。しかし群馬県の二十三町村のうち過疎指定は九町村しかなく、逆に工業地域として、人口四万人を超える大泉町のような存在もある。一方で上野村のような奥地山村や高原キャベツで有名な嬭恋村、わが国の温泉文化を代表する草津町のような存在もある。そういう点で群馬県は、新幹線や東武線で首都に直結する地域と、周辺の地域資源に恵

2. 豊かな低密度社会という主張

筆者が座長を務める総務省の過疎問題懇談会では、令和三年三月に現行過疎法が期限を迎えることを見据えて、特に昨年度から今後の過疎対策のあり方に

まれた農山村地域が、極めてバ

ラエティに富んだ形で存在する県であると言えよう。ただ地域の個性は他と比較しなければ見えてこない。したがってそれぞれの町村は、広い世間を知る識者の指摘も受けながら、それぞれの個性と自らの価値をさらに高めるよう、地域オリジナルに戦略を立てる必要がある。本稿は、そのうち主として農山村地域に存在する、人口規模も小さな自治体をイメージして記述を展開するものである。

ついで議論を重ね、今年の四月に中間報告を公表した。これには「持続可能な低密度社会の実現」という副題がついているが、その背景には、過疎地域の豊か

な自然のもとでの少数の人口による暮らしに、高密度な都市社会とは違った価値があるという認識がある。

この議論のベースになったのは、過疎地域は人口減少を嘆くのではなく、より少数の人口で豊かに暮らす仕組みを創造することに力を注ぐべきであるという、積年の筆者の主張である。過疎農山村の暮らしのしくみは、多数の人の存在を前提にする都市とは違うことは言うまでもないが、かつてはそれを格差と考える人が少なからずいた。大きな都市にどの程度接近しているかによって人口の増減が決まる時代が続いてきたからである。かつての群馬県においても、北部・西部の県境地域の過疎化に対して、東京に直結する地域の人口はかなり増加した。そういう動きを大きな発展と捉え、過疎農山村地域を単純なものとして、それらに対して劣る地域のように考えてきた人が、地域

住民を含めて多かつたはずである。すでにその認識は改まりつつあるが、農山村とくに過疎地域の当事者はその発想からあらためて脱皮し、これからは「違いを格差から価値に変える」を過疎地域の合言葉にしてみたいと思う。

過疎農山村地域には、山々と田畑が織りなすわが国の伝統的な風格ある風景が残されている。大都市に生まれ育った人が育った人にとってはこの風景とそこでの暮らしは、大げさに言う魅力ある異国のような感覚で受けとめられるようになった可能性はある。近年の地域おこし協力隊への応募の増加に象徴される都市の若者の農山村への関心の高まりは、彼らが、そこに都市にはない価値があると感じていることのあらわれとしか考えられない。都市から入ってきた若者が、農林業のワザや、人々の暖かな支え合いという地域の人の生きざまに感動する話は、ほとんどの農山村で聞くことができる。そしてそこから地域の人たちが自らの価値に改めて気づかされるのが、長年続く緑のふるさと協力隊や最近急

激に拡大している地域おこし協力隊が、地域に与えるインパクトである。

今から二十年ぐらい前までは、地方の農山村を訪れて、地元の人に「ここはいいところですね」と言うと、「あなたは都会にいてたまにこういうところに来るからそう思うので、何にもないつまらないところですよ」という答えが返ってくるのが多かった。しかし今は違う。多くの人が「本当にいいところなんですよ」と反応するようになった。これこそ交流の鏡効果といわれる反応であり、訪れる人の地域に対する感想の影響に他ならない。さらに近年では、行政がかかわる地域づくりという取組みが一般化し、ワークショップなどで地域の価値を語り合う機会が増えたことや、テレビなどで田舎の良さを伝える番組も増えていることなども影響していると思われる。そのようないい流れの中で、都市から遠い農山村の行政は、本来価値ある地域の価値をさらに高める人材の育成と受け入れに、正面から挑むべきであろう。

3. 新しいワザの必要性和その価値

勤めをリタイアした兼業農家であれば、余生を小規模な農業で充実した暮らしが可能である。中山間地であれば手仕事のワザで守ってきた農地で、おいしい米や野菜を自らの工夫でつくり、直売施設に出荷してそれなりの所得を得ることもできる。統計上の把握は難しいが、実際にはかなりの数の過疎農村地域に住む人が、このような意味で豊かな暮らしをしていると思われる。人口減少率や高齢化率という数値だけ見れば悲惨な地域と受け取られかねない農村地域でも、実際はお年寄りが笑顔で暮らせる地域であることが多い。

しかしこの落ち着いた状況が二十年続くかと言われれば、それはむしろかとい言わざるを得ない。都市への通勤が困難な山間地域へ行けば行くほど、一人暮らしを含めて高齢者だけの家庭が増えるからである。次世代がリタイアしてUターンするケースもみられるものの、それは必ずしも多いとは言えない。したがって、地域が住み継がれるためには、新たな人の参入がぜひとも必要である。

その意味で、四半世紀以上にわたって地道に続けられてきた緑のふるさと協力隊の意義は極めて大きく、さらに国が主導して創設した地域おこし協力隊の制度はまさに画期的なものと言える。そしてどちらの活動も、その後の定住者をかなり生んでいることは、関係者には周知のことであろう。ただ、若者が地域で生きていくのはそう簡単ではない。高齢者の小規模な農業に価値があるのは、過去からの資産という基盤があるからであって、ゼロからの出発で長期的な暮らしを成り立たせるには別の展開が必要になる。

地域おこし協力隊は三年間の暮らしをつくる準備期間があるが、その後の長期的な生活が可能になるかどうかは、本人の力量と共に、その間地域の人がいかに寄り添うかにかかっていると思う。地元の農林業とかかわって、都市で育った若者が持つ情報系やデザイン系などのスキルを活かす場の育成ができれば理想である。地元の情報を発信する新しいメディアに挑戦している例もあるが、大いに支援してほしい。必ずしも若者でなくとも、移住者による古民家のカフェ、ランチの店、ソバ屋さんなども全国の農村に数多く誕生しているが、これらはすべて農村にとつては新しい生きるワザだと思ふ。これらの存在がいい形で地域社会の存続につながるためには、地元の人その価値を大いに評価し、しっかりと交流が生まれることが重要である。もちろん、農林業が単なる相続を超えて、何らかの形で継承されることは、地域存続の基盤であることを忘れてはいけない。

そして小さな自治体ほど人の距離が近く、職員を含めていろんな立場の人がつながりやすい。大きな自治体ほど、様々な作業が分業・縦割りにならざるを得ないからである。小さな自治体では新しいワザを持つ人もまわりから見えやすく、それを活かすためにどのような力を結集すればいいか、考えることがそう困難ではないはずである。町村行政関係者は、小さいが故の価値を常に思い浮かべる必要があろう。

4. 地域社会の新しいワザ――移住を考える人にとっての魅力づくり――

若者ならずとも大都市の生活者の中には、農村を訪れて都市にはない価値に感動し、その地に移住する人がかなりあらわれてきた。過疎化の進んだ農村を訪れても、かなりの確率で移住者がいる。最近訪れた農村集落の中に、約百世帯の三割を移住世帯が占める地区があったので、感じたことを紹介しておきたい。

和歌山県かつらぎ町天野地区

和歌山市から紀の川を百キロほどのぼり、南の山あいに入った場所にある旧小学校区で、なかなか山々と水田の織りなす穏やかな風景を持つ地域で、旧小学校区である。地区には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中の丹生都比売（にゅうつひめ）神社と参詣道の一部がある。年始の参詣客は多いが普段は比較的静かな地域で、過疎化の流れは続き、これを憂えた地区の



和歌山県かつらぎ町天野地区の風景

プロフィール

(みやぐち・としみち)

宮口 侗 迪

早稲田大学名誉教授、文学博士
1946年富山県富山市（旧細入村）生まれ。
東京大学大学院博士課程にて社会地理学を専攻し早稲田大学に勤務、1985年教授、その後教育・総合科学学術院長を歴任。2017年名誉教授。
国土審議会専門委員、大学設置審議会専門委員、自治大学校講師、富山県景観審議会会長等を歴任。現在総務省過疎問題懇談会座長、富山市都市計画審議会会長を務め、地方の発展のあり方について発言を続ける。1985年から富山市在住。主著に『新・地域を活かす——地理学者の地域づくり論』（原書房）。

有志が、平成十八年に「天野の里づくりの会」を立ち上げた。ただ、それ以前にもすでに、陶芸家や養鶏、カフェ経営などの移住者が入ってきており、そのほとんどがこの地区の農村風景に魅せられてのことだという。会の発足にあたり、農村景観を活用したむらづくりが謳われていることに、地元の人々が地域の価値をきちんと理解していることを感じるが、これにも移住者の影響があった可能性がある。

会は大坂での移住フェアに四年出かけ、地区の農村風景の価値をアピールするとともに、「お

金是要る」「プライバシーは無いと思え」などリアリティに富んだ「田舎暮らしの七ヶ条」を配布している。これは一見脅しのように見えて、筆者には、実は田舎の価値をむしろアピールしているように思える。「参加を求められる地域行事の多さを覚悟せよ」「今までの自分の価値観は通用しないと思え」などは、大都市の生活で孤独感を感じていた人には、むしろ嬉しいのではないだろうか。テレビ番組でも、「都会の人混みが嫌で田舎の一軒家に移住したが、田舎の人付き合いは予想外に楽し

い」という発言を最近聞いた。里づくりの会は空家の確保等でも移住者に寄り添いながら、会の取り組みに参加することを勧め、今ほとんどの移住者が正会員である。会は県の「企業のふるさと」事業で伊藤忠商事との交流に調印し、社員の農村体験としての田植えと稲刈りには会員総出で食事なども提供するようになり、企業の縁でクボタやヤンマーの機械を提供してもらってソバ畑を広げ、ソバ打ちのイベントも行うようになった。また総務省の過疎地域の交付金を活用して竹パウダー製造の機械を購入し、米ぬかと混ぜて「楽チンぬか床」として販売を開始した。作業への参加についてはすべて時給五百円で対応している。

会の収入源としては、行政からの委託の世界遺産ゾーンの参詣道の見回りと風倒木などの処理が重要であり、これには男性会員が割り振りに基づいて対応する。旧小学校舎は簡易宿泊施設として整備されており、大学生との交流に活用されている。このほか農産物直売所、九戸の農家民宿、イターンのソバ屋さん、孫ターンの女性が経営する

古民家カフェなどがあるが、関係者はすべて会員である。さらにこの地区には未就学児の母の会の「なかよし会」、小中学生の親の会の「天野子ども育成会」がある。筆者は、人々が相談し支え合う機会が、この地区ではきわめて重層的に出来上がっていることを知り、このことに最も感動した。これこそが、この地区に移住者が増えた理由であり、地域社会の社会的価値だと考える。

5. おわりに

実際に竹パウダーのぬか床の作業をしている若い母親から話を聞く機会があったが、暮らしの中の安心感が何よりも大きい。

今や名をとどろかせている川場村の成功は、世田谷区という東京の中でも都市的センスにあふれた地域との交流の中で、都市にはない農山村の価値を発揮し、さらに高めてきた結果に他ならない。奥地山村の上野村も積極的な移住政策の展開で、移住者は人口の二割近くに増えたと聞く。上野村では村営住宅を積極的に建設しているが、それをまとめないで各地区にばらし

て建て、地域とのつきあいが円滑になるよう配慮していると伝え聞いたが、素晴らしいことだと思ふ。これも新たな社会的なワザと言えるかもしれない。冒頭に述べたように町村の個性は千差万別であり、広い世間を知る識者の意見も聞きながら、地域の価値をさらに高める地域オリジナルの政策を工夫することが何よりも肝要と思ふ。

関東八都県から百二十六名が参加

関東町村会トップマネジメントセミナー開催

関東町村会（関東八都県町村会）は、町村が直面する課題と問題解決を図るため、副町村長、総務課長として分権時代に相応しい必要な知識や管理監督技術を習得することを目的とするとともに、研修の効率化並びに県境を越えた町村相互の情報・意見交換及び連携強化を図ることを目的に「関東町村会トップマネジメントセミナー」を開催した。

今年度は東京都町村会の設営により、七月二十二日～二十三日の二日間、東京都・全国町村会

館において、本県並びに茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び山梨県の関東八都県の町村会から副町村長・総務担当課長等一二六名が参加し、熱心にセミナーに臨んだ。



なぜ女子はいま地域に向かうのか ～移住女子が拓く都市・農村共生社会～

ローカルジャーナリスト
田中 輝美氏



不良長寿のすすめ

順天堂大学医学部 免疫学特任教授
奥村 康氏



AIで変わる自治体業務

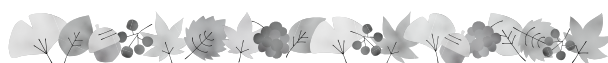
早稲田大学政治経済学術院 教授
稲継 裕昭氏

平成30年度群馬県市町村総合事務組合一般会計決算概要

8月27日開催された群馬県市町村総合事務組合議会令和元年第2回定例会において、平成30年度一般会計歳入歳出決算が認定されました。

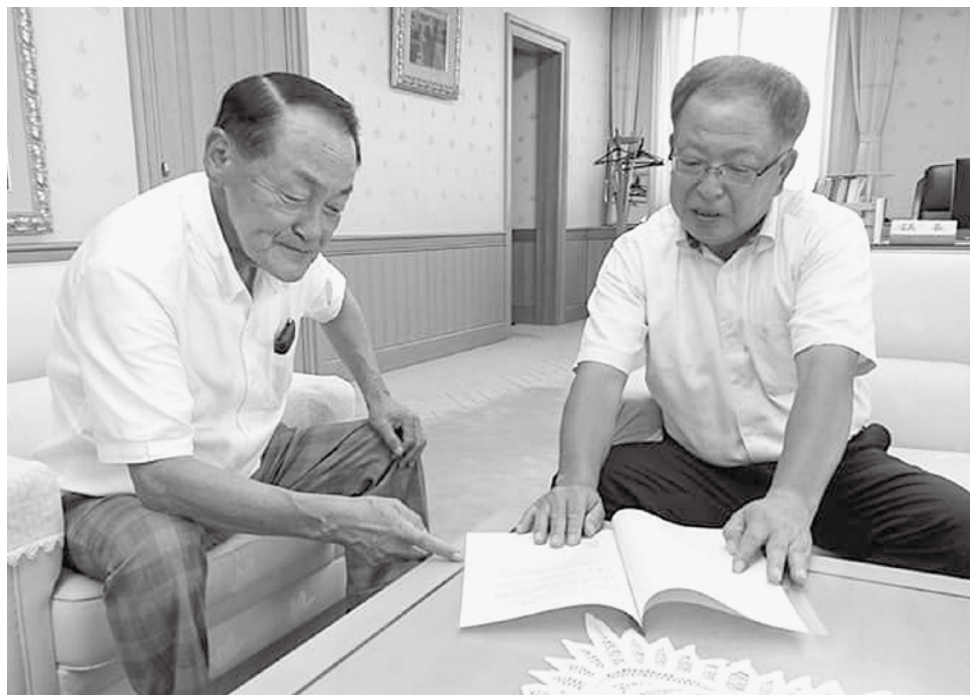
歳入	款	収入済額（円）
	分担金及び負担金	5,585,238,451
	消防共済基金支出金	232,513,159
	県支出金	0
	財産収入	112,281,448
	寄附金	0
	繰入金	830,000,000
	繰越金	36,296,183
	諸収入	36,899,891
	組合債	0
	歳入合計	6,833,229,132
	歳入歳出差引残額	928,760,559円
	財政調整基金等繰入額	900,184,000円
	うち退職手当基金繰入額	897,013,000円
	消防補償等基金繰入額	1,965,000円
	消防賞じゅつ金基金繰入額	305,000円
	自然災害救助基金繰入額	901,000円
	非常勤職員公務災害補償基金繰入額	0円
	令和元年度繰越額	28,576,559円

歳出	款・項	支出済額（円）
	議会費	91,929
	総務費	80,254,800
	事業費	5,437,178,942
	退職手当給付費	5,111,759,312
	消防公務災害補償等費	232,663,308
	消防賞じゅつ金給付費	81,624,680
	自然災害救助費	0
	非常勤職員公務災害補償費	11,131,642
	学校医等公務災害補償費	0
	消防共済基金掛金	274,664,902
	公債費	0
	積立金	112,278,000
	予備費	0
	歳出合計	5,904,468,573



新たな過疎対策法の制定に関する 意見書の提出を県議会に要請

熊川支部長が狩野県議会議長と面会



狩野県議会議長に面会する熊川支部長

全国過疎地域自立促進連盟群馬県支部（支部長は熊川篤彦村長。事務局は群馬県町村会）は、令和三年三月に失効する過疎地域自立促進特別措置法の新法制定を国及び関係機関へ働きかけるため、群馬県議会においても同趣旨の意見書を提出するよう

要請した。
八月十九日、熊川支部長が県議会議長室を訪れ、狩野群馬県議会議長と直接面会し、今後開催される群馬県議会において「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」の提出について協力を願った。

新議員研修会開催



【研修科目】

「地方議会の制度と運営について」

群馬県町村議会議長会

次長 峯岸 茂己

当選議員長の紹介

邑楽郡明和町

田口 晴美

八月九日 当選

甘楽郡下仁田町

島崎 紘一

九月十一日 当選

この研修会は、毎年この時期に開催しており、本年は五十人の新議員及び十九人の議会事務局職員が参加し、本会会幹次長が地方自治法や会議規則など、議会議員にとって必要な法令等について説明した。

全国町村 議会議員 団体医療保険

新・団体医療保険（医療保険基本特約・疾病保険特約セット団体総合保険）

保険期間 2020年1月1日午後4時から1年間

「病気」を補償し、ご安心をお届けする制度です。



安心の団体医療保険 5つの特長

1

「病気」を補償します！

- 病気による入院・手術を補償します。三大疾病（がん・急性心筋こうそく・脳卒中）となった場合の補償もセットできます。
- 病気による入院は、日帰り入院から補償します（注1）。また、1回の入院につき120日限度、通算1,000日まで補償します。

4

お手続きは簡単です！

- ご加入の際、医師の診査は不要です。簡単な告知で加入できます（注2）。
- 保険期間は1年間です。以降1年ごとに自動継続となりますので、お手間が掛かりません（注3）。

2

団体割引30%の、割安な保険料です！

ご加入年齢 満60歳～満64歳の場合（A型にご加入いただいた場合）

疾病入院保険金 1日につき	最大手術の場合 入院保険金日額の40倍	23,070円
5,000円	重篤な手術の場合 入院中の手術：入院保険金日額の20倍 外来の手術：入院保険金日額の5倍	（保険期間1年、年払、 団体割引30%適用）

5

無料の健康・介護相談サービス （SOMPO 健康・生活サポートサービス） をご利用いただけます！

3

議員・退職議員の皆さまのための制度です！

- 議会議員を退職後も、継続して加入できます。
- 議員の皆さまの配偶者も加入できます。
- 満79歳（保険始期日時点の満年齢）まで加入できます。

（注1）日帰り入院とは、日帰り手術のため1日だけ入院と同一ような形で病室を使用した場合等のことをいい、「入院料」の支払いの有無で判断します。

（注2）加入申込書および被保険者健康告知書の内容により、ご加入をお断りする場合や、特別な条件付きでご加入いただく場合があります。

（注3）本制度は保険期間の中途でのご加入はできません。

※このポスターは概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

【保険契約者】
全国町村議会議員互助会

【取扱代理店】
株式会社 まちむら
〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 全国町村議会館2階
TEL 03-3264-6830 FAX 03-3264-8308
（受付時間：平日の午前9時から午後5時まで）

【引受保険会社】
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
団体・公務開発部 第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-5408 FAX 03-6388-0162
（受付時間：平日の午前9時から午後5時まで）

SJNK19-04064 2019.7.11



小さくても輝く尾瀬の郷・ かたしなの実現へ

片品村議会議長 星野 栄 二

片品村は、群馬県の北東に位置し、北は新潟・福島、東は栃木の各県に接しています。

平成十七年にラムサール条約に登録され、平成十九年には単独の国立公園になった尾瀬を始め、上州武尊山、日光白根山、至仏山などの二〇〇級級の山々に囲まれた山地で、村の北東部は丸沼、菅沼の神秘的な湖沼を有する素晴らしい自然環境が、日光国立公園に含まれます。

また、スキー場五カ所、温泉地九カ所、平成の名水百選の認



全日本マスターズスキー選手権大会

定を記念した湧水の水場が九カ所あり、四季を通して観光客が絶えません。

明治二十一年の町村制公布に伴い、明治二十二年に十三カ村が合併し片品村と命名し、本年度百三十年を迎えましたが、その間、合併も改称もなく現在に至っています。

村の産業として、農林業を基盤としていましたが、昭和三十七年以降スキー場開発が進み、スキーブームの影響もあり、昭和五十年代までにスキー観光が形成されて以来、農業と観光を二枚看板としています。

農業では、高原の冷涼な気候を活かして、大根・トマト・トウモロコシなどの野菜を中心に栽培されており、観光地の特性を活かした観光農園の育成やグリーンツーリズムを推進しています。

観光面では、スキー関係のイベントを積極的に展開しており、昭和六〇国体を始め、三度



尾瀬国立公園「尾瀬ヶ原」

のスキー国体を開催し、大会の成功を収めたほか、全国高校総体などの各種スキー大会を誘致し、多くの宿泊客に來村していただけるよう努めています。

片品村には、多彩な自然を求める観光客が年間を通して訪れます。

温泉とのタイアップや自然環境の整備を進めるなどして、これからも多くのお客様に來村していただけるよう、さらなる誘客を図って行きたいと思います。

他の産業では、村内の雇用促進のため誘致した、ボタンの製造工場や精密機器工場のほか、最近では、片品村ゆかりの方が開設した水工場が好調に営業しています。

また、製造業に限らず、老人ホーム等の福祉施設の充実など、高齢者福祉にも力を入れています。

さて、首長と議員は、それぞれ別に住民から選ばれる二元代表制となっており、時に車の両輪に例えられますが、首長の権限は大きく、同じ土俵で対峙し、議会の意味を村政に反映させるのは難しいのが現状です。

しかし、平成の大合併の事案では、当局と意見の整合がとれず、議員発議の住民投票条例案を可決したことがありました。

住民投票の結果は、僅かに合併反対が多く、明確に村民の意思が掌握できたことは、多少の経費には代えがたい提案だったと自負しています。

これにより、当局も、議会もぶれない対応で合併問題を取り切れたことは、言うまでもありません。

事前の風評では、民意は半々の意見でしたので、合併可否か

を村民に委ねたことで、片品村の将来を村民と協働で推進していくきっかけにもなりました。

現在、議会は、民意を反映し、当時から四名減員して、十二名体制となりました。

減員したことにより議会活動が低下しないよう、議員個々の資質向上のため、定期的な勉強会を取り入れ、議員懇談会等を多く開催し、本年は、議会改革特別委員会を設置して、住民から必要とされ、信頼される議会を目指し、一丸となって活動しています。

今後、片品村議会として、村の第四次総合計画の目標である「小さくても輝く尾瀬の郷・かたしなの実現へ」世界を視野に「の達成のため、多くの地方の共通課題でもある、「少子高齢化」「高度情報化」「国際化」の問題を最も優先される政策課題と捉え、若者の定住・移住を促進するため、出産・育児などの子育て支援環境の整備、友好交流の協定を締結している台湾（彰化県埔心郷）をはじめ、国内数カ所との都市交流を活用するなどの政策提言を積極的に行っていくと考えています。

来月一日に沖縄「群馬の塔」

慰霊祭が催され、仲澤会長（上野村議会議長）と角田理事（玉村町長）が参列される予定です。

「群馬の塔」は、先の大戦で国内唯一の地上戦が展開され、凄絶な戦場となった沖縄県に同県や南方諸地域等で戦死された本県出身の戦没者を慰霊し、併せて世界平和を祈念するため昭和

後に広島平和記念資料館初代館長となる長岡省吾氏は、残留

と思うのが、今回のおすすめ

の一冊『原爆 広島を復興させた人びと』・石井光太著・集英社刊・千六百円＋税】です。

昭和二十（一九四五）年八月六日、B 29から投下された原爆により、広島は死の町となつてしまいました。

後に広島平和記念資料館初代館長となる長岡省吾氏は、残留

らせました。

世界平和を願いつつ、奇跡の復興をもたらした広島歴史に迫るノンフィクションであり、

「原爆投下を思い出すから、早く壊してしまえ！」と言われた原爆ドームが、今でも当時のまま、あの場所に遺されていることの意味、そこに込められた当時の人々の次世代に託した想いにも触れられると思います。

戦後も七十四年という歳月が経ち、戦争を知らない世代が総人口の八割を超え、惨禍の記憶が風化しつつありますが、私たちに託された世界平和実現のためにも、過去を謙虚に振り返り、戦争の悲惨さと尊い犠牲があったことを語り継ぎ、戦争の記憶を風化させてはなりません。

しかしながら、私たちの世代が、戦争の本当の恐ろしさを次の世代へ伝えるのは非常に難しいことかと思われませんが、広島街並みに託された想いを感じ、その想いをずっと繋いでいければと思わせてくれる一冊です。

和三十（一九六三）年に建立されたものです。
現在の我が国の発展と豊かな生活、国際社会の中で確固たる地位を築くことができたのも、大戦での数多くの尊い犠牲によるものでありますが、同時に数多くの想いも私たちに託されました。

被爆直後の広島には、原爆市長と称された浜井信三氏、世界的建築家の丹下健三氏など様々な人たちが集まり、命を懸けて「七十五年は草木も生えぬ」と囁かれた広島を平和都市へと蘇

おすすめの1冊



原爆 広島を復興させた人びと

集英社刊・石井光太著

これからの主な行事予定

群馬県町村会関係	日程	会場
町村長行政視察	10月8日（火）～9日（水）	茨城県常総市・栃木県茂木町
町村税務担当課長研修会	10月30日（水）又は11月1日（金）のいずれか	市町村会館 501研修室
理事会	11月6日（水）	市町村会館 町村会役員室
町村総務、財政及び企画担当課長研修会	11月22日（金）	市町村会館 501研修室
県関係国会議員との意見交換会	11月26日（火）	東京都 グランドアーク半蔵門
町村長研修会	11月27日（水）	東京都 グランドアーク半蔵門
全国町村長大会	11月27日（水）	東京都 NHKホール
群馬県町村会創立100周年記念式典	11月28日（木）	前橋市 ホテルラシーネ新前橋
理事会	令和2年1月15日（水）	市町村会館 町村会役員室
定期総会	2月14日（金）	市町村会館 大会議室
会計管理者研修会	2月25日（火）	市町村会館 501研修室

群馬県町村議会議長会関係	日程	会場
理事会	10月23日（水）～24日（木）	上野村 道の駅上野
議員研修会	10月25日（金）	吉岡町文化センター
監査委員全国研修会	10月31日（木）～11月1日（金）	東京都 メルパルクホール
役員視察研修	11月7日（木）～8日（金）	千葉県 長生村議会・鋸南町
県関係国会議員との意見交換会	11月12日（火）	東京都 グランドアーク半蔵門
町村議会議長研修会	11月13日（水）	東京都 グランドアーク半蔵門
町村議会議長全国大会	11月13日（水）	東京都 NHKホール
議会広報研修会	11月18日（月）	市町村会館 大研修室
県知事・県議会議長と町村議会議長との意見交換会	11月19日（火）	前橋市 ホテルラシーネ新前橋

